

国語科における言語文化教材の射程

伊坂 淳一

Discussion on the Range of Teaching Materials of Japanese Language Culture Education

ISAKA Junichi

要約

平成30年版高等学校学習指導要領（国語）による科目再編における新科目である「言語文化」科目は、従来のいわゆる文学教育、古典教育の枠組みを超える新しい発想を導くものである。言語文化教育のための教材として、半ば暗黙の合意とされてきた個別の作品の理解の目的化や原作主義から脱却し、翻案・翻作や二次創作などを主教材とした言語文化全体を見据えた教材化という視点を持たなければならない。そうすることによって、我が国の言語文化の継承と再生の意義を理解し、その価値を感得する学習へと転換することが可能となるだろう。

キーワード：国語科の科目再編、言語文化、文学作品の教材化、翻案・翻作、二次創作

1. 学習指導要領改訂に伴う 科目構成再編によるパラダイムシフト

平成30年3月に告示された「高等学校学習指導要領」（以下、「高等学校学習指導要領2018」という）において、国語科では科目の再編が行われた。すなわち、平成21年3月告示の「高等学校学習指導要領」（以下、「高等学校学習指導要領2009」という）からの大きな変更として、

- ・「国語総合」（4単位）が必修であったが、「現代の国語」（2単位）及び「言語文化」（2単位）が必修となった
- ・選択科目として「国語表現」（3単位）・「現代文A」（2単位）・「現代文B」（4単位）・「古典A」（2単位）・「古典B」（4単位）があったが、「論

理国語」・「文学国語」・「国語表現」・「古典探究」すべて4単位に再構成されたということになった。

選択科目の再編において2単位科目がなくなり、すべて4単位科目に整理されたことから、各高等学校等における教育課程編成では融通性が低くなったともいわれている。例えば、第2・3学年において、現代の評論も文学も古典もすべて取り込みたいと思っても、「論理国語」・「文学国語」・「古典探究」の3科目12単位を選択するということが実際上むずかしくなったのである。

結果的にこのような選択の余地を狭めることにつながっているのが、科目再編の背後にある分野・教材領域が再編されたという点である。以下、「分野」「教材区分」という呼称は私的に設定した

仮称である。

高等学校国語科の「読むこと」領域においては、従来より2分野4教材区分という発想が慣習的に受け継がれてきた。すなわち、

- ・現代文分野（評論教材区分・近現代文学教材区分）
- ・古典分野（古文教材区分・漢文教材区分）

という認識である。高等学校学習指導要領2009までの科目構成もこの一般的な分野・教材区分におおむね沿っていた。実際に高等学校学習指導要領2009の「国語総合」の「内容の取扱い」に、

- (4) ア 古典を教材とした授業時数と近代以降の文章を教材とした授業時数の割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めること。なお、古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにすること。

という記述がある。「現代文」と「古典」（古文・漢文）という区分をふまえている。

また、「国語総合」の教科書では「現代文編」と「古典編」、さらには「現代文編」・「古文編」・「漢文編」に分冊されているということもふつうであった。

もとより必修科目が「国語総合」4単位から、「現代の国語」2単位と「言語文化」2単位に分割されたことは、両科目のねらいや身につけさせたい資質・能力の違いを明確にするという高等学校学習指導要領改訂の意図を考慮しなければならない。幸田国広（2018）はこのことを、以下のように述べている。

両者〔＝「現代の国語」と「言語文化」〕の関係は、論理的思考力や表現力の骨格づくりに必要な〈方法知〉の獲得に相対的な重点を置く「現代の国語」の学習で身につけた「資質・能力」を活用して、「言語文化」における文学や古典といった〈内容知〉の学び方を高度化するとともに、「言語文化」で学んだ言葉の深みや奥行きの見識から現代の実用的な言葉の運用を対象化することでさらに言葉の豊かさへと誘うことができる。二つに分けることで、位相の異なる言語の学習内容をそれぞれ純化するとともに、一つ

の教科として各々の学びを相互に関連付けることで統一を図ることになる。〔町田守弘・他編（2018）、p.31〕

同時に、それぞれの科目で取り扱う教材について、次のような区分の再編成が行われたことになったということになる。

国語総合(4単位)			
現代文		古典	
評論文	近現代文学	古文	漢文

⇓

現代の国語(2単位)		言語文化(2単位)	
評論文・実用文		近現代文学	古文 漢文

実際には各科目に「話すこと・聞くこと」領域及び「書くこと」領域の教材が含まれるので、これよりも複雑になる。高等学校学習指導要領2018の「現代の国語」は「内容の取扱い」で、

ア 「A 話すこと・聞くこと」＝20～30単位時間程度

イ 「B 書くこと」＝30～40単位時間程度

ウ 「C 読むこと」＝10～20単位時間程度の時間配当が規定されていて、「読むこと」の学習に割り当てることのできる時間は多くない。

さらに同じ評論文を取り上げるにしても、高等学校学習指導要領2009と同2018の扱い方は、前掲の幸田国広（2018）も述べているとおり、内容の理解を目的とするか、述べ方や考え方の方法を目的とするかという違いがある。また、「読むこと」教材としても、実用文の比重が高くなる。

高等学校学習指導要領2018の「現代の国語」は「情報・論理と表現・実用」の科目であるといっ

てよい。この目標に沿う限り、近現代文学であれ古典文学であれ、文学作品を「現代の国語」の教材として取り上げることが直ちに否となるわけではなく、実際に2022年度から使用される「現代の国語」の文部科学省教科書検定において重大な混乱が生じたのもたしかである¹⁾。

しかし、この「『情報・論理と表現・実用』を目的とする文学作品教材」という発想が一般には理解しにくいためということもあるのか、「現代

の国語」からは原則として文学作品が排除されるべき方向が示された。すなわち、「読むこと」領域の基本方針は、文学教材と文学教材以外を選り分け、文学教材を「言語文化」に一括りとするところにある。これは、選択科目である「文学国語」・「古典探究」と「論理国語」・「国語表現」との間でも維持されている、これまでにない大きなパラダイムシフトであるといえる。伝統的な「現代文」「古典（古文・漢文）」という呼称も、今後は無効化していく可能性が考えられる。

2. 言語文化教育がめざすべき方向性

高等学校に限らず国語科における文学教材への偏重は、以前から指摘されてきた。例えば、2008年告示、2017年告示の中学校学習指導要領の国語科の配慮事項に次の記述がある。

- (3) 第2の各学年の内容の「C 読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱うこと。

「調和的に取り扱う」とは、実質的に文学教材に偏ることのないようにという意味であった。高等学校学習指導要領2018は、このような方向性を科目再編という形で明確にしたものだといえる。

これに対して、「文学を軽視してよいのか」、「国語をビジネス日本語科目にしてよいのか」といった主張が行われ、いわゆる文学教材擁護派と改革派との間で論争が起きた。次のような書籍の出版があった。

- ・紅野謙介『国語教育の危機 大学入学共通テストと新学習指導要領』筑摩書房 2018
- ・紅野謙介編『どうする？ どうなる？ これからの「国語」教育 大学入学共通テストと新学習指導要領をめぐる12の提言』幻戯書房 2019
- ・紅野謙介『国語教育 混迷する改革』筑摩書房 2020
- ・榎本博明『教育現場は困ってる 薄っぺらな大人をつくる実学志向』平凡社 2020
- ・大塚英志『文学国語入門』星海社 2020
- ・幸田国広『国語教育は文学をどう扱ってきた

のか』大修館書店 2021

- ・疋田雅昭『文学理論入門 論理と国語と文学と』ひつじ書房 2021

また、文芸誌で特集が組まれることがあった。

- ・『季刊文科』第78号（特集 国語教育から文学が消える）鳥影社 2019
- ・『文学界』第73巻第9号（特集「文学なき国語教育」が危うい！）文藝春秋 2019
- ・『中央公論』第133巻第12号（特集 国語の大論争「論理国語」と大学入試）中央公論新社 2019

さらに古典教育に関する論争があった。

- ・前田雅之『なぜ古典を勉強するのか 近代を古典で読み解くために』文学通信 2018
- ・勝又基編『古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。』文学通信 2019
- ・長谷川凜・他編『高校に古典は本当に必要なのか 高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ』文学通信 2021

本稿は個々の主張を取り上げたり、理念的な主義主張を展開したりする意図はない。しかし、文学教材そのものを否定するわけではないものの、漠然とした教養主義や文学至上主義に拠って、「文学は生きる力になる、教養である、だから必要だ」という主張には与しない。「現代の国語」科目や「論理国語」科目は言語による情報の扱い方や論理的思考、表現と理解の力を身につけさせる科目であって、単に実用主義、実務主義に傾いているとは考えていない。そして、「言語文化」科目、さらに「文学国語」科目は、「言語」の「文化」を学ぶ科目にパラダイムシフトする必要があると考えている。

高等学校学習指導要領2018における「言語文化」科目は、「伝統的な言語文化」と等価ではない。ましてや、「国語総合」の「古典」だけを切り出したものでもない。「言語文化」科目の目標は次のように示されている。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるよう

にする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

「言語文化」科目独自の目標は(1)のみであり、(2)と(3)は「現代の国語」と共通する項目である。各科目の内容を生かした異なるアプローチによって、共通の目的を果たすことをねらいとしていられる。また、この文言の中でも特に、「他者との関わりの中で伝え合う」、「自分の思いや考えを広げたり深めたりする」、「言葉がもつ価値への認識を深める」、「言葉を通して他者や社会と関わろうとする」ことが重要であると思われる。教材の文種や学習方法に違いがあっても、必修教科目が共有する目標である。

「言語文化」科目の指導事項には、身につけさせたい資質・能力の中核として2系列があると考えられる。次に、本稿の筆者の言葉による言い換えを示す。①は「〔思考力、判断力、表現力等〕－C 読むこと」のア～オの指導事項に、②は「知識と技能－(2)」のア～カの指導事項に基づき解釈したものである。

① 言語文芸作品に現れる特有の言葉の使い方を理解し、それを活用してさらに他の言語文芸作品を読み解く力を身につけること。そのことを通して、豊かな言葉づかいの価値や言語表現の深さを感得し、言葉が持つ力を重視する資質を身につけること。

② 我が国の言語文化、特に連綿として受け継がれ、新しい創造を果たしてきた言語文化作品やそれを尊重して育ててきた我が国の文化・社会の価値を感受すること。そのことを通して、これまで伝えられてきた言語文化作品をさらに継承し、新しい言語文化を創成し

ていこうとする意欲を持つこと。

ここから、古典文学作品でも近現代文学作品でも、学習方法への改革が求められる。すなわち、従前の高等学校の授業では、個々の文学作品を読み込み、その内容を理解することに、さらにそれに関する授業者の解説をどれだけ理解し、時に暗記し、定期考査において再現できるかという学習に多くの時間と労力を費やしてきた。古典の授業では、古典文法や漢文訓読法、古語の意味や漢文特有の語法を暗記し、それらをもとにした品詞分解や読み下し文の作成ができること、そしてそれらを組み合わせた現代語訳が作れることにほぼ終始してきたといえる。今後は、学習の中心を次の2項に置く方向を考えたい。

① 文学的な言語表現の読み解き方を学ぶ

② 我が国の言語文化の価値を考える

本稿の筆者も、文学が生活を豊かにする、文学が人の心に働きかけ、世界を理解したり変えていこうとしたりする力があるという主張を否定するわけではない。しかし、国語科授業がどうあるべきかという問題は別である。

3. 言語文化教材の視界の拡大

本稿は、「言語文化」科目の教材についての考え方を提言することを目的としている。

「言語文化」科目が、従来の「国語総合」から「古典」を切り出したものでないことは明らかである。同時に、古文、漢文、近現代文学の素材をばらばらに取り上げ、それぞれの理解を自己完結的に目的化して扱えばよいということではない。すでにさまざまな形で主張されているように、

・一つのテーマ、視点をもとにして複数の素材を読み比べる

・批判的に読み、自分の考えを形成して表現する

などの授業での取扱い方に関する発想が求められている。

さらに、これまでの文学教材のほとんどは原作であった。ここでいう原作とは、例えば清少納言作の「枕草子」²⁾であり、芥川竜之介作の「羅生門」であり、後述のような翻案・翻作、二次創作

などに対する原作という意味である。

学習のための教材を原作に固定しないという方針は、以前より明示されてきた。例えば、2008年告示の中学校学習指導要領（国語）の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。」という配慮事項が、2019年告示の「高等学校学習指導要領（国語）」の「国語総合—内容の取扱い」には、「古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。また、古典に関連する近代以降の文章を含めること。」という配慮事項が記されていた。

また、平成30年版高等学校学習指導要領解説（国語編）には、従来の古典学習に関して次のような指摘があることが記述されている。

古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらないことなどが課題として指摘されている。（p.8）

そのうえで、次のような科目再編の意図を述べている。

我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつとは、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値をもつ言語そのもの、つまり、文化としての言語、また、それらを実際の生活で使用するによって形成されてきた文化的な言語生活、さらには、古代から現代までの各時代にわたって、表現し、受容されてきた多様な言語芸術や芸能などの担い手としての自覚をもつことである。（p.24）

そのために、「内容の取扱い」に次のような配慮事項を挙げている。

我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章や古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用するなどして、我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。（p.136）

このような指摘をふまえ、これからの「言語文化」教材として、古文・漢文だけでなく近現代文学においても原作だけでなく、「言語文化」に関する多様な活動としての創造的な翻案・翻作や二次創作などを積極的に取り上げ、学習教材としていく方向性を考えたい。そうすることによって、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めるとともに、我が国の伝統や文化が言語文化の価値を認め、育んできたことを理解する、さらにこれを継承し、新しい創造を生み出していこうとする資質を育てることや学習者自身の言語活動に生かしていく能力を育てることができだろうと考える。

ここでいう翻案・翻作や二次創作を取り上げるというのは、補助教材、参考教材としてという意味でなく、主教材としてという意味である。例えば、漢詩の教材では中国の詩人が作った漢詩そのものが教材としての学習対象であった。その現代口語による翻案が掲載されることがあっても、あくまで参考という形で補助的な位置に置かれることがほとんどであった。具体的には、于武陵「勸酒」や孟浩然「春暁」に対して、井伏鱒二や土岐善麿の訳詩が添えられることがあるが、あくまでも原作を理解するための参考の扱いであった。

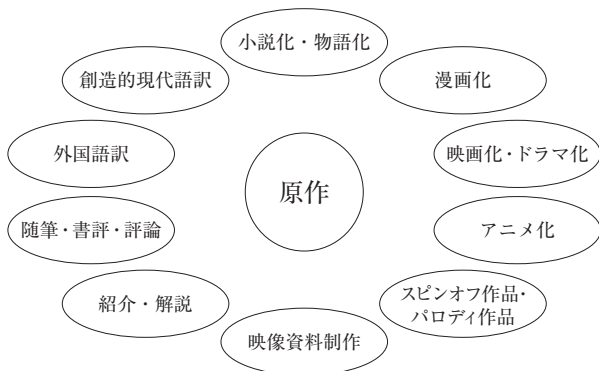
今後は、創造的な翻案・翻作や二次創作などを補助的な参考としてでなく、主教材として位置づけることを考えていきたい。

創造的な現代語訳は単なる直訳や逐語訳、原文の機械的な現代語への置き換えにとどまるものではない。井伏鱒二や土岐善麿の翻訳詩は、創造的な言葉づかいや表現を意図した、いわば現代詩としての鑑賞に堪え得る一つの作品である。そのような、学習者の感性に響き、そのよさを感じ取ることができる、翻案という行為に対して関心や敬意を抱き、自ら挑戦しようとする意欲を持てるというような素材の発掘とその教材化を考えていくことが必要であると考ええる。

4. 翻案・翻作と二次創作等の 発掘と多様な教材化・学習方法の事例

今後の「言語文化」科目、さらには「文学国語」

科目においては、文学教育というこれまでのフレームをいったん措いて、原作としての文学作品から、翻案・翻作や二次創作など、言葉による文化の創成に資してきた多様な言語文化作品や言語文化活動に視野を広げていくことを考えたい。すなわち、ある原作を中心にして見て、学校の国語授業で教材として取り上げられる可能性のある翻案・翻作や二次創作などの素材は、おおよそ次のイメージ図によって示すことができる。



具体物にどのような素材があるか、以下では「枕草子」を例として、どのような素材が教材候補として考えられるかを挙げていきたい。「枕草子」に適切な素材が見つからない場合は、「竹取物語」を取り上げることとする。

① 創造的現代語訳

「枕草子」の研究的な現代語訳は相当数出ているが、多くは逐語訳、原文の文章に忠実な現代語への置き換えである。他方で、作家による創造的な現代語訳に次の2作がある。

- ・橋本治『桃尻語訳 枕草子』河出書房新社 1987-88
- ・酒井順子『日本文学全集7』河出書房新社 2016

橋本訳の初出は作家による古典翻訳の先駆けであった。酒井訳とともに、それぞれ独自の文体が駆使されている。例えば、第一段の冒頭文を、橋本は「春って曙よ!」、酒井は「春は、夜明けが好き。」とする。「春はあけぼの。」の一文を体言止め文か、「(いと)をかし」の述語が省略されたものか、あるいはここが「。」なのか「、」なのかといった議論の桎梏から解かれた、いわば作家らしい自由な現代語になっている。

また、分類としては⑧になるが、酒井は自身の随筆に、

私がいちばん迷ったのは、「春はあけぼの」から始まる一段です。もっとも有名な「春はあけぼの」の一節をどう訳すのか。[中略]私は迷いに迷った末に、「春は、夜明けが好き」と訳しました。「好き」という言葉を入れたんです。[中略]清少納言は「好き」「嫌い」の区別が非常にはっきりしている人だからこそ、私は最初にはっきりと「好き」という言葉を入れておきたかった。そして、最後の一行にある「わろし」を、「嫌い」と訳しました。(酒井順子『枕草子 清少納言は「あるある」のパイオニア」〔酒井順子・他『作家と楽しむ古典 土佐日記 堤中納言物語 枕草子 方丈記 徒然草』河出書房新社 2018 pp. 101-102])

と記している。『『好き』に始まり、「嫌い」で締める。それが、私の感覚が捉えた『枕草子』の一段でした。』という記述もある。

これらをふまえて、

- ・橋本訳と酒井訳を比べて読み、それぞれの訳文から受ける印象についてまとめる。
 - ・酒井の随筆文を合わせ読み、創造的な現代語訳の創出に関わる作家の工夫やその価値について考え、意見交流をする
- などの学習活動が考えられる。

② 小説化・物語化

次の作品がある。

- ・田辺聖子『むかし・あけぼの 小説枕草子』角川書店 1986
- ・沖方丁『はなとゆめ』角川書店 2016

ともに原作の回想章段を中心とし、清少納言自身を一人称の語り手とする小説に翻作した作品である。小説化作品の全体量の長さや中学校・高等学校では回想章段になじみが浅いために、まとまった文章量を取り上げることは容易ではないが、千年ほど前の作品が現代でも翻作され、人々に読まれ続けているという言語文化的な価値があること、翻作という創造的な行為自体に我が国の言語文化の継承と再生の意義があることを考えさせる教材になり得る。

同様に一人称の語り手の物語としての翻作であるが、より平易な現代語を意識したものとして、

- ・時海結以『枕草子 清少納言のかがやいた日々』（青い鳥文庫）講談社 2014

がある。小学校における「親しむ」を主眼とした学習にとって、これまでの定番化しつつある教材の枠を見直す候補になるだろう。

③ 外国語訳

現在比較的入手しやすい英語訳には、次のものがある。

- ・Arthur Waley tr. *'The Pillow Book of Sei Shōnagon: The Diary of a Courtesan in Tenth Century Japan'* Tuttle Publishing 2011
- ・Meredith McKinney tr. *'The Pillow Book'* Penguin Classics 2006

Arthur Waleyによる抄訳の初出は1928年であった。他にもIvan Morris、Mark Jewelによる英語訳があるが、本稿の筆者は未見である。学習者にある程度の英語力が求められるが、単純に複数の英語訳の比較や原作との比較という学習活動が考えられる。また、このような形で現代でも外国語に翻訳されている我が国の古典文学作品の価値を知ることにもつながるだろう。

なお、周作人、林文月による中国語訳やその他の言語への翻訳もあるが、本稿の筆者は未見である。実際に国語科授業で実際に扱うことは容易ではないだろう。

④ 漫画化

現在入手しやすい主な漫画化作品として、次のものがある。

- ・面堂かずき『NHKまんがで読む古典1 枕草子』ホーム社 2006年
- ・東園子・他、中島和歌子監修『学研まんが日本の古典 まんがで読む枕草子』学研プラス 2015
- ・赤間恵都子監修『マンガで楽しむ古典 枕草子』ナツメ社 2015

「枕草子」の漫画化は他にもあり、また、他の古典文学作品の漫画化も少なくない。そして、実際に漫画を国語授業で活用している授業者はすでに多いだろうが、原作理解のための補助、参考と

いう位置でなく、漫画自体を主対象とする授業構想をより強く意識していきたい。例えば、

- ・漫画の絵や台詞を比べて読むことによって、漫画家自身の清少納言像、「枕草子」観の比較をする
- ・漫画化に関連した漫画家・監修者などによる随筆や書評などと合わせ読むことにより、彼らが「枕草子」に感じている魅力や「枕草子」が現代も持ち続けている価値について考える

などの学習活動が考えられる。原作や原作の現代語訳は後から読むということも考えたい。

⑤ 映画化・ドラマ化

ピーター・グリーンナウェイによる「枕草子」の映画化があるそうであるが、本稿の筆者は未見である。内容的にも学校で扱うのは難しいようである。

「竹取物語」には市川崑脚本・監督による1987年の東宝SF作品がある。長さの問題があって、学校の授業で取り上げるためには若干の工夫が必要だが、「竹取物語」の現代語訳との比較、それによって映画の制作者の解釈や意図を考えるという学習活動が考えられる。

⑥ アニメ化

「枕草子」のアニメ化作品について、本稿の筆者は知らない。「竹取物語」には高畑勲監督による2013年のスタジオジブリ作品が著名である。同時にアニメ化作品にもとづいたコミック版である『シネマ・コミック19 かぐや姫の物語』（文藝春秋 2019）、さらに作品に関連した文章を集めた『ジブリの教科書19 かぐや姫の物語』（文藝春秋 2018）やアニメ映画のメイキングに関わるものなど関係する資料が豊富である。学校の授業での活用には著作権関係について注意を要するが、ジブリ作品は独自の解釈を持ち込んでいることを明示しているところに、教材化への魅力が感じられる。

シネマ・コミック版や映画パンフレットには、

古典文学『竹取物語』に独自解釈を加え、長編アニメ化。竹から生まれたかぐや姫は、人として生きる喜びと悲しみを知り、月へ帰って行く。絵巻物のような画風で、古典の世界を活写した。

というコピーが記されている。この「独自解釈」という文言が授業にとっての魅力であり、原作の現代語訳などと読み比べることにより、「どのような独自解釈が与えられているか」、「人として生きる喜びと悲しみとは何か、どのように描いているか」といった課題を考えることができる。

⑦ スピンオフ作品・パロディ作品

いわゆる「枕草子」の「ものづくし」を模した文章は古くは近世からあり、現代でもインターネット上のサイト等に多数見られる。「私の『～なもの』を書く」という学習活動も広く行われているところであり、古典を身近なものとして感じ取るといってそれなりの役割をはたしているといえるだろう。ただし、学校の国語授業において参照できる素材としては、少なくとも活字化されたものである必要があろう。

かかし朝浩『暴れん坊少納言（全7巻）』（ワニブックス 2007－2010）はまさにパロディというべき漫画作品である。授業での活用の仕方には工夫を要しようが、二次創作が生み出す原作の力を知るためのエビデンスとしての価値はある。

⑧ 随筆・書評・評論

「随筆・書評・評論」というくくりは、これらが截然と分けられないからである。現在入手しやすく、比較的読みやすいものとして次のような著書がある。「枕草子」に関する随筆などの刊行書は少なくないので、これら以外にも授業に持ち込みやすいものがあるかもしれない。『枕草子 いとめでたし！』は小学生を対象としている。

- ・酒井順子『枕草子RIMIX』新潮社 2004
- ・小川洋子『心と響き合う読書案内』PHP研究所 2009
- ・林望『リンボウ先生のうふふ枕草子』祥伝社 2009
- ・山本淳子『枕草子のたくらみ 「春はあけぼの」に秘められた思い』朝日新聞出版 2017
- ・天野慶・赤間恵都子監修『枕草子 いとめでたし！』朝日学生新聞社 2019

くりかえしになるが、原作を理解するための補助・参考としての位置づけでなく、これら自体が対象となるような学習活動を考えていきたい。教

材化例を後掲する。

⑨ 紹介・解説

児童生徒向けの紹介・解説をそのまま教材として考えることができる。次のような著書がある。

- ・赤間恵都子『歴史読み枕草子 清少納言の挑戦状』三省堂 2013
- ・田中貴子・石井正己監修『増補改訂版 絵で見てわかる はじめての古典③ 枕草子』学研プラス 2020

単に知識を広げる、原作への理解の補助とすることだけでなく、解説に対応する原作の現代語訳と読み合わせることによって、学習者が新しく知ったこと、なるほどと理解したことなどを書き出させるという学習活動が考えられる。

⑩ 映像資料制作

⑨の映像版とも考えられるが、学習者にとっての興味・関心の入り口として扱いやすいということが想定できる。インターネット上で視聴しやすいものとして、NHK for Schoolに次のものがある。

- ・おはなしのくにクラシック 枕草子（清少納言）
- ・清少納言
- ・歴史にドキリ 紫式部・清少納言～国風文化の誕生
- ・10min.ボックス 古文・漢文 枕草子（清少納言）
（以上、次のリンクから閲覧可能 <https://www.nhk.or.jp/school/keyword/?kw=%E6%B8%85%E5%B0%91%E7%B4%8D%E8%A8%80&cat=all&from=1&sort=ranking>）

ここでも単に原文の理解の補助とするのではなく、現代でもこのような映像資料が制作されるに値する古典文学作品の価値があることに気づかせる、制作者はどのような意図を持ち、どのような工夫をしているかを考えさせるという方向を考えたい。

5. 教材化例と補足

実際の教材化例を次々ページ以下に2例示す。

- ・教材化例1 「構成・展開が似ている民話と神話、説話を読み比べて、類似点と相違点を取

り出してまとめ、その意味を考える教材」(62ページと63ページに見開きで提示)

時空を超えて類似点のある物語が伝わっていることから、それを継承してきた人々の心性や言語文化には何かしらの普遍性があるのではないかと、いう気づきを引き出すことをねらいとする。

- ・教材化例2 「古典作品に対する評論とその評論に対する書評を原作の一部と読み比べ、評者の考え方を取り出してまとめる教材」(64ページに提示)

前節⑧を具体化した教材例であり、「枕草子」をめぐる現代の随筆家による現代語訳と評論及びその評論に対する書評を取り上げ、我が国の古典文学作品の読み方について、新しい知見に気づくことをねらいとする。

教材化例1、2ともに、本稿の紙面の関係で、引用した文章の一部のみを示すにとどまる。この引用部分の限りでは、「課題」の意図や解決例が伝わりにくい結果となっているが、やむを得ない。

最後に本稿のまとめとして、次の2点を記しておきたい。

- ・言語文化の学びの改革は、高等学校教育を発信点としてようやく始まろうとしているところである。原作主義に立ち、作品の内容理解を目的としてきた従前の文学教材から脱却し、我が国の言語文化を総体として対象化する学びを実現していくために、今後も生徒の興味・関心を刺激する教材の発掘に努めていく必要がある。

- ・高等学校教育から出発した言語文化教育は、今後は中学校さらには小学校へと波及していくことが求められる。教材の定番化、固定化をいかに打破しているかが課題となる。

注

- 1) 2021年に文学的な文章を「現代の国語」に掲載した教科書に対する文部科学省検定が問題となった。
- 2) ここでいう「原作」は、「枕草子」のオリジナルが4系統の諸本のうちのどれかという研究上の問題を意味してはいない。

参考文献

- 浅田孝紀 (2018)『高校国語教育の理論と実践 言語文化教育の道しるべ』明治書院8
- 大滝一登 (2018)『高校国語 新学習指導要領をふまえた授業づくり 理論編』明治書院
- 大滝一登 (2019)『高校国語 新学習指導要領をふまえた授業づくり 実践編 資質・能力を育成する14事例』明治書院
- 大滝一登・高木展郎 (2018)『新学習指導要領対応 高校の国語授業はこう変わる』三省堂
- 幸田国広 (2018)「共通必修修科目 現代の国語」〔町田守弘・他 (2018)『シリーズ国語授業づくり 高等学校国語科 新科目編成とこれからの授業づくり』東洋館出版〕
- (本稿本文中に記載したその他の参考文献の列記を省略した。)

参考資料

- 文部科学省告示「中学校学習指導要領」2008年
- 文部科学省告示「中学校学習指導要領」2017年
- 文部科学省告示「高等学校学習指導要領」2009年
- 文部科学省告示「高等学校学習指導要領」2018年
- 文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(国語編)」2018年

▼『今昔物語集』(平安時代末期) 第二十六卷第八話の説話
猿神を生け贅の男にこらしめられる話

今は昔、仏道修行のために諸国を旅している僧がいた。行く先を定めない旅を続けていくうちに、僧は飛騨の国に行き着いた。しかし、うっかり山奥深くに分け入ったために、道に迷ってしまった。方角もわからないまま、落ち葉がふりつもった道のようにも見える筋をたどって先に進むと、やがて行き止まりになった。そこには、幅が広く、まるですだれをかけたような形の大きな滝があつて、高い場所からこうごう音を立てて流れ落ちていた。

引き返そうにも、たどってきた道筋がもうわからない。進もうにも、垂直に切り立った岩の断崖が百丈とも二百丈とも思える高さにそびえ立っていて、よじ登ることなど絶対にできない。僧は進退きわまつて、一心に「仏さま、どうかお助けください」と念じ続けた。すると、うしろの方から足音が近づいてくる。振り返ると、荷を背負い笠をかぶった男が近づいてくる。「やれ、ありがたや」と、道を訊くために僧は相手を持ち受けた。やって来た男の方も僧の姿を認め、ひどく怪しむような顔つきをした。僧は相手に歩み寄って、

「あなたはどこから、そしてどうやってここに來られたのですか? この道はどこに出るのですか?」

と問いかけた。しかし、相手の男はひと言も答えずに、そのまますたすた滝の方に歩いていって、あつと思う間もなく滝の中に躍り入って姿を消した。僧は、「さては、あれは人ではなく鬼の類いだったのだな」と思つて、ふるえあがつた。

「あれが鬼であるなら、もうこの身はどうして無事ではいられまい。ならばいつそのこと、鬼に食われる前に、あの鬼の真似をして滝に身を投げて死んでしまおう。死んだあとなら、鬼に食われたところで苦しくはないはずだ」

そう思い決めた僧は、滝に歩み寄り、

「仏さま、どうか私の後生をお助けください」

と祈念して、滝の中に躍り入った。ところが、顔にさつと水がかかったかと思つた次の瞬間、僧のからだは滝を通り抜けてしまった。すぐにも溺れるだろうと観念していたのに、意識がまだちゃんとある。これはどうしたわけだ、と振り返ると、なんと、滝の水はまさに一枚の薄いすだれのように流れ落ちていただけだった。……(以下、省略)

出典

大岡吟訳『今昔物語集』光文社 二〇二一年

課題

1 「鉈切の神の大蛇退治」から、「鉈切神社」について調べていくと、千葉県教育委員会が作成している「県指定史跡」に関する記事が見つかった。民話とこの記事の内容にはどのような接点が想像できるだろうか。考えたことを文章にまとめよう。

種別

県指定史跡

指定日

昭和42年12月22日

所在地(所有者)

館山市浜田376(船越鉈切神社)

概要

房総半島南端の館山湾周辺には、縄文海進の時、地盤が浸食されてつくられた海食洞穴がいくつも見られる。本洞穴はその一つで、湾に面した洲崎半島中央部の標高25mの海岸段丘にある。洞穴開口部では高さ4.19m、幅5.85mをそれぞれ最大とし、開口部から最奥部まで36.8mである。現在、洞穴には船越鉈切神社の拝殿及び本殿が建てられている。昭和31年(1956)10月、拝殿の建築工事に伴い発掘調査が行われ、縄文時代後期初頭(約4,000年前)を中心とした土器や動物や魚の骨、鹿の角や動物の骨で作られた漁の道具が多数出土した。調査の結果、魚の種類はわかったもので約50種、漁具は釣針や刺突具、網の錘(おもり)など内容に富んだものであった。このことから、ここに住んだ縄文人は豊かな海洋資源を獲得するため、多様な漁の方法を身につけ暮らしていたことが判明した。この洞穴は、古墳時代に一部が墓として利用され、その後、丸木舟を社宝とした海神を祀る神社として地元漁民の信仰対象となっていることも、興味深い事実である。出土品の一部は館山市立博物館で公開されている。

出典：千葉県教育委員会ホームページ

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/bunkazai/bunkazai/p411-041.html>

2 「ササノヲ、出雲に行く」は、「八岐の大蛇退治」として広く知られている神話である。この話の神話らしさはどこに現れているだろうか。話の内容を引用しながら文章にまとめよう。

3 「生贅の男が猿神を退治する話」で、猿神を退治する男は、どのような人物として描かれているだろうか。英雄としての姿だけでなく、その行動や発言、心情の描写などをとりあげ、自分の感じたことや考えたことを文章にまとめよう。

4 「鉈切の神の大蛇退治」、「ササノヲ、出雲に行く」、「生贅の男が猿神を退治する話」の三編には、物語の構成や展開のうえでのどのような共通点があるだろうか。また、成立した時代やジャンルが異なる三編の話に、共通する点があるのはなぜだろうか。考えたことを文章にまとめよう。

鉈切の神の大蛇退治―千葉県館山市の民話より―

▼現代に伝わる民話

それは大昔のことだ。手に鉈を持って、旅をする力の強い神がおった。ある時、相模から舟で安房の国の浜田に渡って来たそうだと。ところが、どの家も戸を閉めきっていて、人の気配がしなかった。

「おかしいこともあるものだ。」

と思つて、神は家から家へと回つて歩いた。

すると、一軒の家の中から大勢の人の気配がして、すすり泣きの声も聞こえた。そこで、家の中に入つて何をしておるのかと尋ねた。

「実は、この村の紫池にあやしい化け物がいて、毎年の秋の祭りの前の晩に、若い娘を差し出さないと、田畑を荒したり子どもを八つ裂きにしたりして、暴れ回るので。それで、今年はこの家の一人娘の番になりましたので、別れの盃を交わしておるところです。」

と話した。

「そうであつたか。それならばこのわしが娘の着物を身につけて、身代わりとなろうではないか。」

村人たちは、この旅の者で化け物が許してくれるかどうか、心細かつたが、ひとつお願いしてみようということになったそうだと。

さて、神は娘に化けて籠に乗ると、紫池にやってきた。すると、あやしい風が巻き起こり、黒雲が空に広がりました。村人たちは籠をそこに置くと、まっ青になつて逃げて戻つてしまった。

神はふところの鉈をしっかりと握つて、化け物の現れるのを待った。

しばらくすると、池の真ん中の水がザバツと割れて、真っ赤な二つの目をらんらんと光らせた大蛇が姿を現した。あたまには水草が髪の毛のように生え、口は喉の方まで裂け、赤い舌をベロベロと出していた。これにはさすがの神も息を飲み、身が縮こまりそうだった。

(以下、省略)

出典

安藤操『続・千葉県の民話』千秋社 一九八一年

スサノヲ、出雲に行く

▼『古事記』(奈良時代)上巻の神話

追放されたスサノヲは出雲の国、肥河の河上、鳥髪というところに降り立った。すると河に箸が流れてきた。

それを見たスサノヲは上流に人が住んでいるのだと推理し、河を上つて行くと、はたして老人と老女がいて、若い娘を中に置いて、泣いていた。

「おまえたちは何者か」というスサノヲの問いに対して老人は、

「私はこの国の神である大山津見神の子で、名を

足名椎(アシナヅチ)と言います。妻の名は

手名椎(テナヅチ)、この娘の名は

櫛名田比売(キシナダヒメ)と申します」と言つた。

「それで、おまえたちはなぜ泣いているのか」と聞え、足名椎が答えて、

「私たちにはもともと八人の娘がいましたが、高志に住む八俣のオロチが毎年やってきては一人ずつ食べてしまいました。今年も来る時期になつたので泣いているのです」と言つた。

「どういう形をしているのだ」と聞くと、

「目はまるでホオズキのように赤く、身体は一つでも頭と尾が分かれて八つずつあります。その身体には苔や杉や檜が生えております。長さはと言え、八つの谷、八つの尾根にまたがるほど。腹はいつも血に濡れてただれています」とアシナヅチは答えた。

スサノヲが老人に向かって言うには、

「その娘を私にください」と問うた。

「ありがたいことですが、私どもはまだあなたさまの名前も知りません」とアシナヅチは言う。

「私はアマテラスの弟である。今、天から降りて来たのだ」と答えた。

「恐れ多いことで。それならば娘を差し上げましょう」とアシナヅチは言つた。

そこでスサノヲが娘を爪櫛に変えて自分の髪に挿し、アシナヅチと手名椎に命じて言うには――

(以下、省略)

出典

池澤夏樹訳『日本文学全集1 古事記』河出書房新社 二〇一四年

教材化例 2

とり所なきもの

とりえの無いもの。

容姿が悪い上に、性格も悪い人。

腐った洗濯糊。

……などといひくことを書いたけれど、皆が嫌がる物だからといって、今更書かないわけにもいきません。

また、「後火の火箸」という諺も、世間に無いことでもないけれど、この草子を人が見るものとは思っていなかったで、眉をひそめられそうなことでも変なことでも、思っていることをそのまま書こうと思っているのです。

出典

『池澤夏樹 個人編集 日本文学全集 7』河出書房新社 二〇一六年

「女同士」というもの

▼酒井順子による「枕草子」の評論

ではなぜ、清少納言は文章など書いたのか。……と考えた時に、私には思い当ることがありました。枕草子を始めてまともに読んだ時に私は、「これは……アレに似ている！」と思ったのですが、そのアレとは、女子校に通っていた高校時代、退屈な授業中に書いてはクラスの友人に回覧していた「週刊アタシ」的な極私的雑誌。だれその今日の髪型は変だとか、文化祭でのどの男子校の友人を呼ぶべきとか、浴槽別の女子高生生態ルポといったネタをレポート用紙に書きまくり、友人に回しては、「そうそう、そうなのよ！」などと言ってもらったのが楽しかった。

そんなものと比べるとは大変失礼なこととは承知しておりますが、枕草子というのはそれ——すなわち女子校において自然発生しがちな極私的回覧雑誌と、とてもよく似ているのです。

出典

酒井順子『枕草子 R I M I X』新潮社 二〇〇七年

酒井順子『枕草子 R I M I X』

▼川上弘美による酒井順子『枕草子 R I M I X』への書評

そうだったのか！

と、びっくりすることが、この本にはたくさん書いてあります。

酒井順子さんの書くものは、いつもそうなのです。

わたしたちが「知っているよ、それ」と思っていることについて、ほんとうのところ、あんまりくわしく、きちんと、知らなかったのだ！ ということに、酒井さんのさまざまな文章は、気づかせてくれます。

たとえば、この本の冒頭。

春は、あけぼの。

「はじめに」で、この本の著者である酒井さんも書いていらつしやるとおり、枕草子と聞いて誰もが思い出すのは、この一行であるに違いありません。

その次につづく、

やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて

紫だちたる雲の、細くたなびきたる。

の部分は、こうして解説をおおせつかったわたし自身、恥ずかしいことに、すでにうろ覚えでした。あらためて読んでみると、ほんとうにうつくしい文章なのですが、でも忘れていました。

「春」に続く「夏」「秋」「冬」の節、これも、しっかり覚えていた人となると、ぐつと少なくなるに違いありません。

出典

川上弘美『大好きな本 川上弘美書評集』朝日新聞社 二〇〇七年

課題

1 酒井順子は「極私的回覧雑誌」という言葉で、「枕草子」のどのような点を捉えようとしているのだろうか。

2 川上弘美は、酒井順子の現代語訳や「枕草子」観のどのような点に共感しているのだろうか。